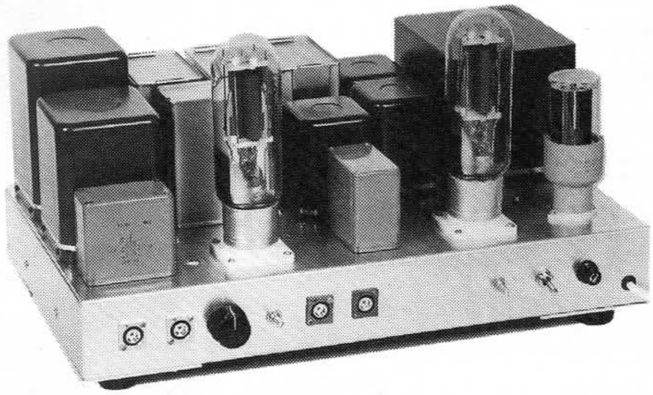
直熱管アンプ放浪記

845ドライブ845シングル CDバッファーアンプ

佐久間 駿 Sakuma Susumu



序 章

悠々たるかなフルヴェン．寥々たるかなパウエル．845を以てこの大を計らんとす．原音再生の伝説ついに何らのオーソリティーに値するものぞ．オーディオの真相は只一言にして尽くす．曰く不可解．

この恨みを抱いて煩悶，トランス結合に活路を見た若き日の我．すでに五十路半に及んで，胸中何らの不安あるなし．改めて知る．オーディオは測定器の奴隷ではないと．

「4月某日」
風強し
隣家の桜路地を染める
夕刻
シゲッティー聴き原稿1枚書く
夜半
カザルス流し机に向かう
一字一句浮かばず
チェロの音夜を引き裂く
晴

「某日」
前日より気温10度低し
昨夜来の雨
桜無残なり
午後
ストリクトリー・パウエル聴く
夜半
原稿5枚書く
妻の風邪回復に向かう
たぎる湯の音
しばし耳をすます
雨

「某日」
ベートーヴェン7番聴く
フルトヴェングラー指揮
ベルリンフィル1943年
迫り来るソビエト軍
この2楽章
その靴音と聴いた
夜半
原稿書き終えリパティ聴く
シューベルト
即興曲変ホ長調
まぎれもなくパウエルの血が
色濃くにじむ
疲労甚だしく
夜の深さが肩に重し
晴

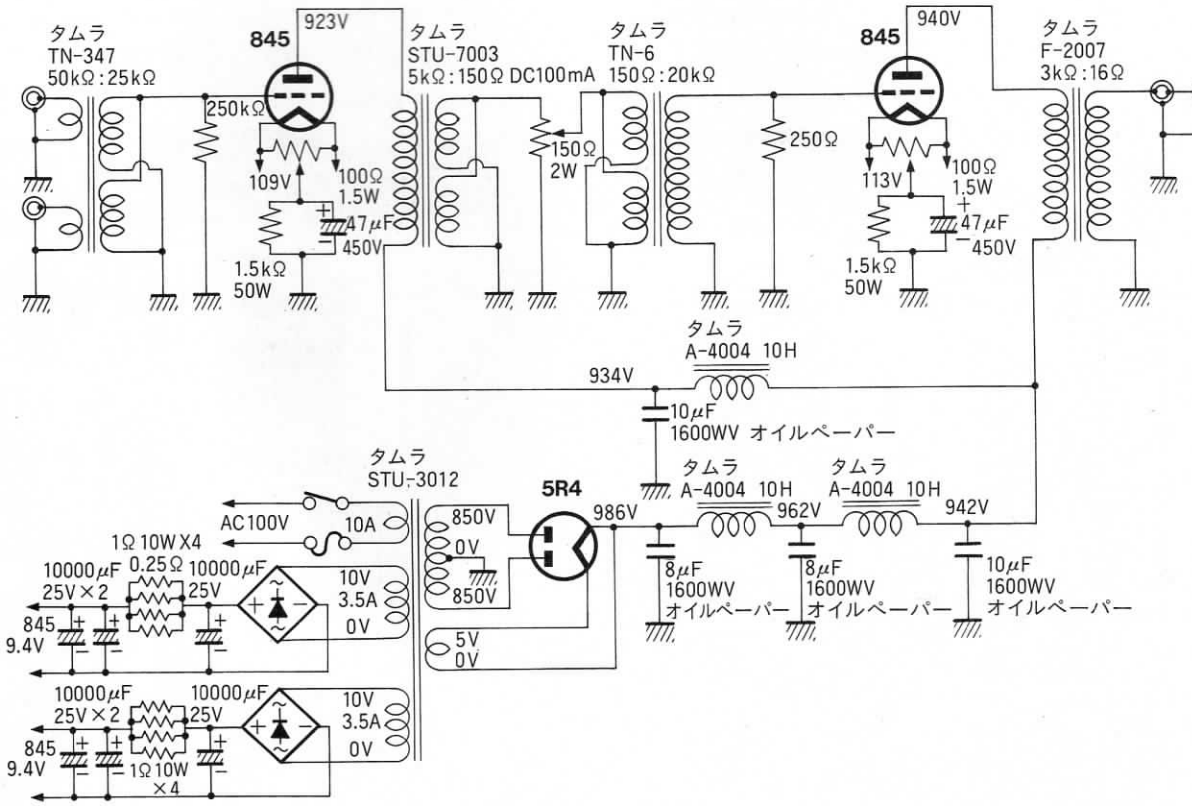
845ドライブ 845sバッファーアンプ

プレートに1000Vかけよう．845のプレートに1kVだ．何が何でも1000Vだ．パワーアンプ，EQアンプ，もちろんバッファーアンプにもだ．

MJ 1998年10月号掲載の845ドライブ845s EQ．あのアンプがいけなかった．彼奴が俺を引きずりこんだ．1000Vいや1kVの魔力に．1kVと500Vでどう違う．それは恐ろしいくらい違ってくる．何が違うって音の密度が違う．鋭と鈍のバランスがそれは見事．ラッパとバスドラが同居している．密度の濃いエネルギーの中にだ．

俺は845に取り憑かれた．いや1kVにかもしれない．あの後たて続けに845だ．300Bドライブ845プリメインアンプ，845ドライブ，845プリメインアンプ．845ドライブの300Bパワーアンプ，どれもが1000Vいや1kV．とにかく845は1000Vだ．

1kVかけたバッファーアンプ，これはすごい，本当にすごいぞ．俺は今までCDを甘く見ていた．



845 ドライブ 845 シングル・CD バッファーアンプ

生白い色男だと本気で思っていた．ところがどっこいとんでもない．奴は紛れもなく筋金入りだ．面倒みればどんどん良くなる．見違えるような男になれる．プレートに1000V かけよう．**845** のプレートに1kV だ．1kV かけたバッファーアンプだ．CD を鳴らすのはこれしかない．

CD を聴き始めてもう17年，この辺でそろそろおひらきだ．1kV のバッファーで決着だ．デジタルくさい CD の音はどうも，そんなことは言ってられないよ．時代は変わるどんどん変わっていく．世界一優秀な警察が嘘をつき，5000万脅したガキがいる．お受験の果てによその子を殺し，足の裏ながめて1億騙しとる，えらい時代になってしまった．

オーディオも変わる，どんどん変わる．CD-R という奴が大人気だそうだ．俺もこの前そいつを頼んだ．ティアックの清川さんに電話した．俺はこう見えても新し物好きだ．CD も DAT も早くから始めた．目新しいものを取り入れ，古い物の良さもキッチリ残そう．それが俺のイデオロギーだ．

回路図を見てみよう，つぶさにだ．TN-347 でモノーラルに整合，**845** で **845** をドライブする．ただのパワーアンプじゃないか，みんなそう言うに決まっている．そうただのパワーアンプなのだ．ただのパワーアンプをバッファーアンプに使う，これがミソだ．これが秘伝なのだ．CD を直接パワーアンプで受ける，これでは駄目だ，ろくな音がしない．CD は必ずバッファーで受けよう．これが奴を男にする唯一の手だ．

だがこれではまだまだ手緩い．プレートに1000V かけよう．**845** のプレートに1kV だ．何が何でも1000V かけよう．**845** はとにかく1000V だ．1000V かけると世界が変わる．デジタルくさい CD の音はどうも，そんなセリフが言えなくなる．

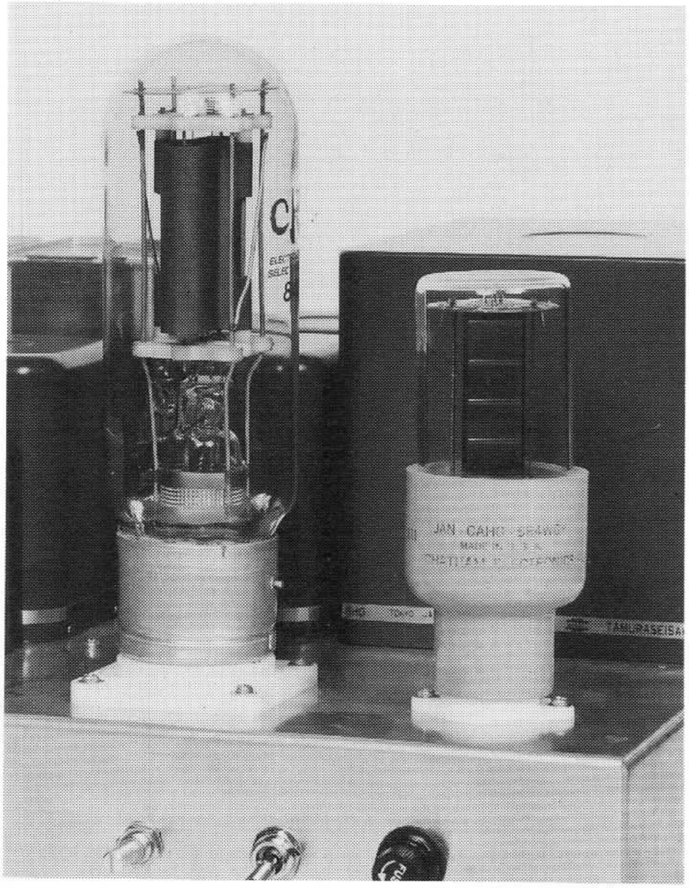
でもこれでもまだまだ手緩い．回路図を見てみよう，つぶさにだ．ドライバー**845**にも1kV だ．これが秘伝だ，これがミソなのだ．ドライバーにも1kV かけよう．ファイナルにも1kV かけよう．1kV と500V でどう違う，何が違うって音の密度が違う，このことこそ秘伝中の秘伝だ．

EQ アンプもいずれはこうなる．400V から1kV に変えよう．なぜあのときそうしなかったのか．

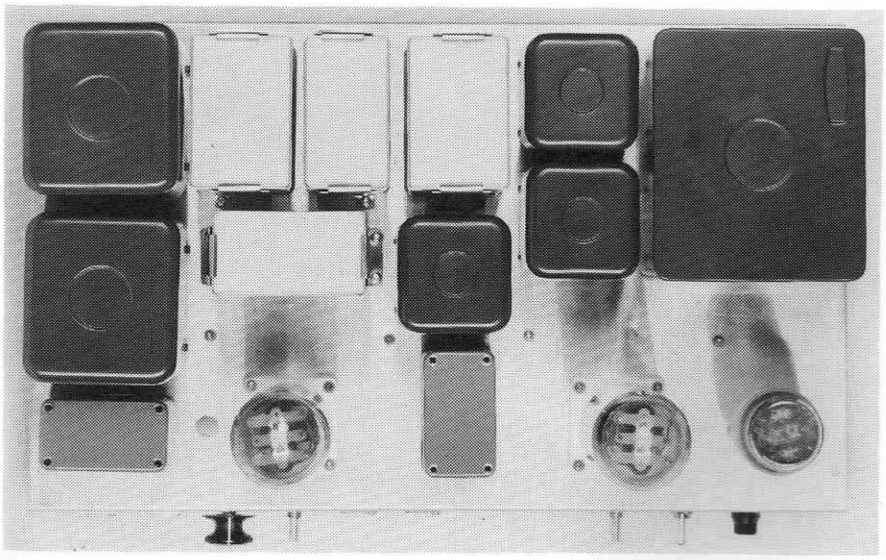
回路図を見てみよう，つぶさにだ．初段 **845** 負荷の5kΩ：150Ω，このトランスがあのときなかった．胸の中にさえ存在していない．A-4714 では心もとない．1kV の電圧をかけるのには．そのため400V で駆動させた．

ッジ用，それと10V・3.5Aが2巻線，こんなすごいもの誰が考えた．ひょっとしたらY氏の仕業か．彼は切れ者だ，なかなかの手練だ．

回路図を見てみよう，つぶさにだ．845に1000Vかけよう．1000Vでなくてはだめだ．ファイナルに1000Vかけろ．ドライバーにも1000Vだ．845に1000Vかけよう．何が何でも1000Vかけろ．いや1kVかもしれない．



ドライブ管，出力管ともにCRコーポレーションの845，整流管は高電圧が取り扱える5R4WGY，ソケットは山本音響工芸のテフロン製を採用



左端の前から，入力トランスTN-347，結合トランスSTU-7003，出力トランスF-2007，ドライブ管845の右に結合トランスTN-6，奥にチョークコイルA-4004を3個とオイルペーパーコンデンサーを4個，右端に電源トランスSTU-3012と出力管845と整流管5R4を配した．堂々たる偉容．シャシーのサイズは300×500mm

試聴記

「4月某日」
夜半
ベートーヴェン3番2楽章聴く
フルトヴェングラー指揮
ウィーンフィル1944年
瓦礫と化したベルリン市街
フルヴェンとウィーンフィルの
感情を押し殺した慟哭
弦の美しさ際立ち
花冷えの夜気の中
灯々とストーブの火もえる

「某日」
夕刻
スタディー・イン・ブラウン聴く
カウンターにジャズ通5人
ランズ・エンドに息をのみ
ジョージス・ディレンマにため息
夜半
ベートーヴェン聴く
ピアノソナタ31番3楽章
この深い悲しみの中の沈黙
1958年5月13日録音
グルダ弱冠28歳

「某日」
午後
チャーリー・パーカー聴く
1949年JATPより
エンブレイサブル・ユー
パーカーのソロ際立ち
レスターどこか寂しげなり

所感845バッファーアンプ

分厚く重厚な中低音．アルテック515ウーファー，それをいとも軽やかに弾き出す．クラシックの再生は抜群．難を言えばジャズの再生において高域感にわずか不満あり．要調整．S/N言うことなし．

長きにわたり845を用いたアン

の楚々とした哀惜の念のみを想わせる．バックハウスの弾くピアノソナタ32番２楽章．あの悟りきった諦観を，この1944年の３番２楽章になぞらえてしまうのは僕だけだろうか．

「オーディオでこんなすごい音がするのか」．腕を組んで仁王立ちの平岡さんがうめくように言い放つ．「佐久間さん今日はいいものを聴かせていただいた」差し出された手を握り返す．極真で鍛えあげた手のひらは思ったより柔らかだった．

フルトヴェングラーのベートーヴェンに血道をあげて15年，和らかな日差しが差し込む古い木張りのホールで，ほんのつかの間だが彼の真の姿をかいま見ることができた．

今まで幾度となく覗き見た姿は所詮幻にすぎなかった．あの日彼は忽然と姿を現し，２つのシンフォニーの２つの楽章を僕にプレゼントして忽然といずこかに消えた．彼の本当の姿にまた遭遇できるのは，いつの日になるだろうか．

あのコンサートの成功は徽音堂の音響の良さにほかならない．僕の作ったつたないアンプもその一翼を担ったかもしれない．それとこのオーディオ・コンサートにかけたお茶大生達の熱い想いがここまでの成功を促したのかも．それにしても彼女達の聡明さと酒豪ぶりが一際印象に残ったコンサートだった．

終　章

「佐久間駿と平岡正明のメシ食ってます」，ドルフィーのアウト・トゥ・ランチのテーマ曲にのってナレーションが流れる．いよいよ本番だ．「こんばんわジャズの好きな平岡正明です」「こんばんはコンコルドの佐久間駿です」「今日はデクスターの特集ということですが，まずは佐久間さん一曲やってください」．「それではボーカルを一曲やりましょう」．「それはいい．何をかけます」「藤圭子の『京都から博多まで』」「素敵ですね．ぜひ聴かせてもらいましょう」．担当ディレクター岩崎氏の顔がちょっと曇る．そうだこの番組はジャズ専門番組なのだ．

衛星デジタルラジオ，ミュージーク・バード「ジャズ８」，麹町のTFMの４階のスタジオで評論家平岡正明氏とディスク・ジョッキーを始めて半年になる．もちろんジャズがメインなのだが，ど演歌，シャンソン，タンゴ，浪花節など，いろいろなジャンルが華を添え，フルトヴェングラーのシンフォニーがうなりをあげる日もある．

この放送を聴いた方がお茶大のコンサートにも大勢来てくれた．土佐の高知からわざわざ我が家に出向いてくれた人もいる．10月までの契約なので，その先のことはわからないが，少しでも長く続けられればと念じている．

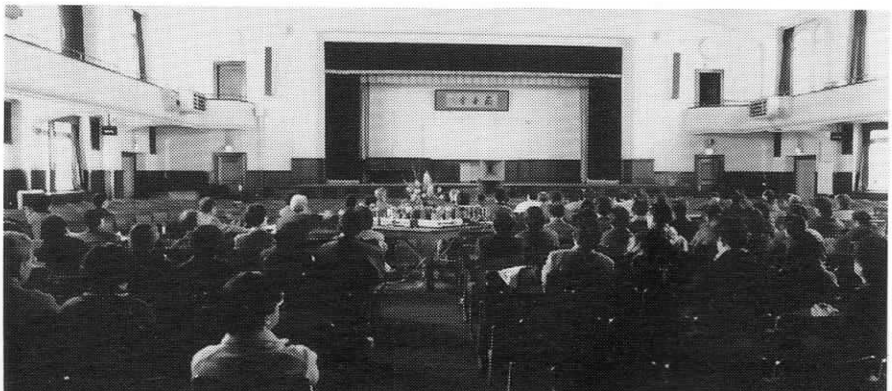
今日はティー・ガーデンの「ベイズィン・ストリート・ブルース」を繰り返し聴いた．昨日君津のジャズ喫茶「サットンズ」のマスターがわざわざ届けてくれたものだ．やっと見つけたからと，僕がもうとうに忘れていた10年も前の約束を果してくれた．ボビー・ハケットと共演したこの「ベイズィン・ストリート・ブルース」，この曲だけを聴いて生きていた，そんな時代が僕にはあった．

レッド・ニコルスと共演した1929年のアルバムやキッド・オリィーとニューポート，ジャズフェスティバルでやった1957年のアルバムでもティー・ガーデンの「ベイズィン・ストリート」を聴くことができる．しかし僕にとっての「ベイズィン・ストリート」は，ボビー・ハケットをバックに歌ったこのアルバム以外に考えられない．

それにしてもティー・ガーデンの声は素晴らしい．穏やかで，慈悲深くてまるで神の声を聞いているようだ．

殺人，恐喝，詐欺，誘拐，日本中の罪悪を丸ごと呑み込み，穏やかな春がまた巡ってきた．

小手毬が咲いている．



お茶の水女子大学「徽音堂」におけるフルトヴェングラーは，まるで別物だった